

イスラエルによるパレスチナ自治区ガザへの侵攻を引き起こしたイスラム組織ハマスの攻撃から1年。停戦交渉は難航し、パレスチナ側の死者は4万人を超えた。イスラエルの苛烈な攻撃の背景に何があるのか、止めるすべはないのか。国際社会、そして日本にできることは。

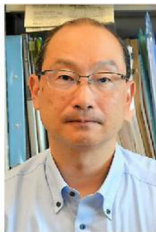
国際的な停戦監視や復興貢献を

——ガザでの戦闘が起きて1年が経ちました。「イスラエル軍とハマスの戦闘は2008年と14年にもありましたが、1〜2カ月はとどめ取戻しして、当時と比べて長期化しているのは、昨年10月のハマスのような攻撃約1〜2000人も死者を約12000人も死者を出したイスラエル国民への衝撃に加え、同国の政情の激しい変化（停戦）による、反発した極右政党が内閣を組織して政権崩壊し、汚腐敗感で起訴される Netanyahu 首相が逮捕される可能性があります。停戦を難しくしています」

国際政治学者

東 大作さん

1969年生まれ。上智大学教授。専門は和平調停、国際関係論。国連アフガン支援ミッション事務官などを歴任。著書に「ウクライナ戦争をどう終わらせるか」「内戦と平和」など。



—— Netanyahu 政権は、レバノンのスラム教シーア派組織ハマスと共同関係にあるイスボラへの攻撃を激化させています。「ガザ停戦への圧力をかわすための線を引き、イスボラを支援するイスラムもイスラエルに直撃ミサイル攻撃をかける、異質の連鎖に恐怖を覚えます。連鎖を止めるには、まずガザ停戦を実現することが一番重要です」

——5月、米がイスラエルへの停戦案を公表しましたが、停戦につながられてはいませんか。「ハマスは当初の提案を受け入れられましたが、イスラエル自身がガザ駐留の継続という新たな要求を加えてハマスも反発し、予断を許しません。イスラエルには目下の米大統領選の結果を踏まえて判断したい思惑もあります」

——停戦合意にはイスラエル軍がガザから完全に撤退することが必要です。敵の軍がどのような状態に停戦後の平和構築プロセスを進めることは極めて困難です。銃口を突きつけられているわけですか。「」

——今回の直接の発端は、ハマスによるテロ攻撃でした。ハマスの破壊を主張するイスラエルを諷刺できるのでしょうか。「ハマスはガザを統治しており、病院、学校、避難所も運営しています。その構成員全てを殺害するのであれば、イスラエルの攻撃により親を失った子孫を養った人の中には、新たにハマスに参加する人や、もっと過激なグループに入る人もいるでしょう。ハマスを軍事的に破壊でき、しかもそれが地域の安定につながると信じるのは間違っていますか」

——憎しみの連鎖を断ち切るにはどうすれば。「ガザの人々に指を指して『これは天井のな監獄』と表現されます。同じパレスチナでも、ヨルダン川西岸地区では隣国ヨルダンとの間で『平和と繁栄の回復』が案か。ヨルダン側で仕事ができる人もいます。ガザにも、例えばエジプトの協力を得て域外で仕事ができるように近づきたいという事実があります。米国の本気でイスラエルを諷刺することが大して、国際社会もこれが言い続ける必要がありません。ただし実現には長い時間がかかるでしょう」

——停戦後も両者の緊張関係は続きます。私はイスラエルが撤退した後、国連がガザ内部にPKO（平和維持活動）の部隊を派遣し、停戦を監視することで両者の信頼醸成を促すことを提唱しています。国際的な停戦監視部隊が入ること、パレスチナの人々もイスラエルの人々も同じような戦場をおこなない一定の安心感を得ることができず、「憎しみの連鎖を断ち切るにはどうすれば」

「ヨルダン川西岸での平和回復の機軸は日本が主導的役割を果たしてきました。ガザの復興に日本が果たせる役割も決して小さなものではない、エジプトなど地域の大国に働きかけながら復興プロセスに関わることができると思います」

「私は何年か中東やアフリカを訪問しましたが、経済大国になっても軍事力行使しない日々に現地の人々は特別な信頼を持っています。その信頼を大切に、より中立的な立場から国際社会での議論を促す役割を日本は果たしてほしいです」

（聞き手、女優 藤巻）